

ジャパンエンジンコーポレーション

船のエンジンの製造と 修理・部品・ライセンス

第2次中期事業計画の数値目標は、
初年度の実績でどこまで進んだか

要約

第2次中期事業計画の初年度の実績と残る目標

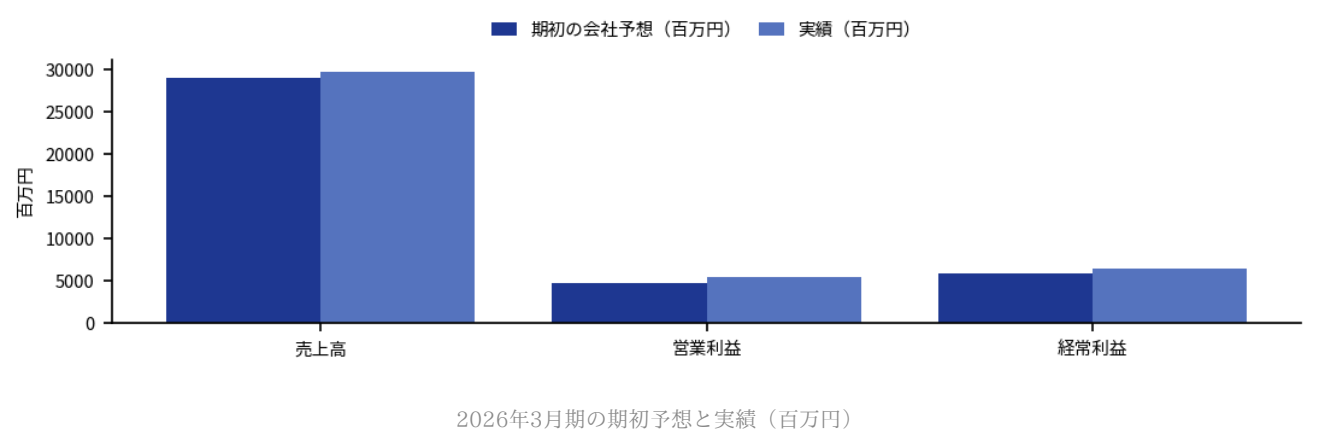
答え

1. 2026年3月期の売上高29,707百万円と経常利益6,433百万円は、2025年5月13日の期初の会社予想を上回りました。

2. 第2次中期事業計画の2026年度の売上高目標30,000百万円に対し、会社は2026年5月14日に32,700百万円の予想を示しました。

3. 有価証券報告書の人材の目標のうち女性社員比率20%には、2026年3月期も14.0%で届いていません。

項目（2026年3月期）	期初の会社予想（百万円）	実績（百万円）	達成率（%）
売上高	29,120	29,707	100.7
営業利益	4,760	5,458	101.4
経常利益	5,850	6,433	101.8



注：期初の会社予想は2025年5月13日の公表値。達成率は会社の公表値で、2026年2月10日に上方修正した予想に対する割合です「進捗状況のご報告」 p7。

2025年6月24日の有価証券報告書は、2026年3月期の営業利益について「研究開発費の増加により前年同期比で減益」と見込んでいました。実績の営業利益は前期の5,090,934千円から5,458,304千円になりました。第2次中期事業計画の2026年度・2027年度の目標は、実績がまだ出ていない「途中」の段階です。

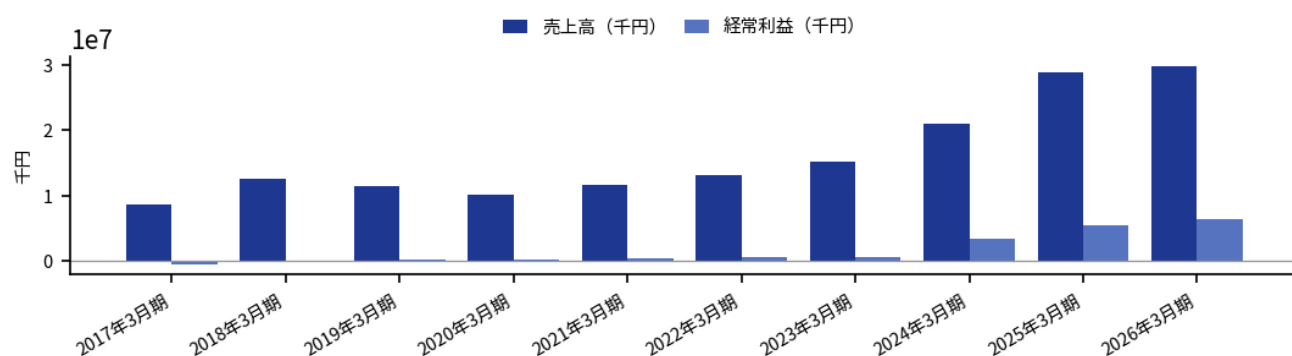
初年度の会社全体の数字は期初の予想を上回り、人材の目標には届いていません。

本レポートの構成と無料ページとの違い

あの〇〇のしくみの無料の会社ページと同じく公開資料だけを使い、このレポートでは10期の業績と配当（p3）、事業区分の売上（p4）、地域（p5）、受注残（p6）、投資（p7）、資料ごとの表記の違い（p8）を、数字ごとに出典の頁つきで載せています。

10期の業績と株主還元

年度	売上高（千円）	経常利益（千円）	経常利益率	1株配当	配当性向
2017年3月期	8,749,550	△464,423	△5.3%	2.00円	—
2018年3月期	12,635,415	118,873	0.9%	30.00円	7.8%
2019年3月期	11,509,834	173,156	1.5%	15.00円	13.3%
2020年3月期	10,149,065	172,624	1.7%	15.00円	14.0%
2021年3月期	11,648,911	387,270	3.3%	18.00円	16.0%
2022年3月期	13,157,574	602,115	4.6%	22.00円	11.4%
2023年3月期	15,248,603	682,042	4.5%	40.00円	13.8%
2024年3月期	20,969,501	3,518,873	16.8%	130.00円	14.3%
2025年3月期	28,862,663	5,421,355	18.8%	116.00円	14.7%
2026年3月期	29,707,108	6,433,235	21.7%	88.00円	15.5%



売上高・経常利益（単体、千円）

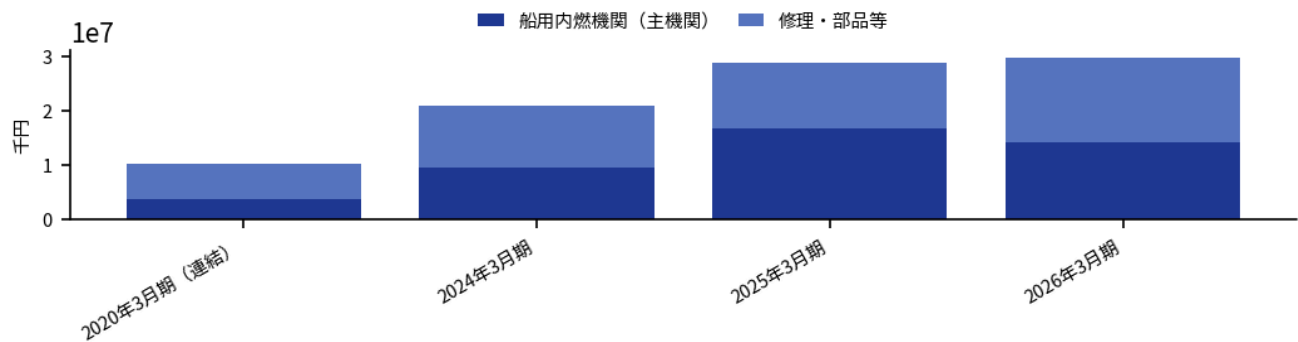
注：すべて単体（提出会社の経営指標）の値で、2020～2022年3月期は連結の値もあります「有価証券報告書」p3・p3・p3。経常利益率は経常利益÷売上高の計算値。2025年3月期の116.00円は中間配当が分割前の額です。

会社は「経営指標としては、「経常利益」を重視」と書いています。経常利益率は2020年3月期の1.7%から2026年3月期の21.7%になりました。営業利益は2024年3月期から2,188,942千円、5,090,934千円、5,458,304千円で、営業利益率は10.4%、17.6%、18.4%です。自己株式の取得は2026年3月期で1,133,500円（キャッシュ・フロー上は△1,133千円）と小さな額にとどまります。

売上高と経常利益は2024年3月期から大きく増え、配当性向は2022年3月期の11.4%から2026年3月期の15.5%へ上がりました。

主機関と修理・部品等の売上

年度	船用内燃機関（主機関）	修理・部品等	売上高の合計	修理・部品等の比率
2020年3月期（連結）	3,548,687	6,603,284	10,151,972	65.0%
2024年3月期	9,493,898	11,475,603	20,969,501	54.7%
2025年3月期	16,780,776	12,081,887	28,862,663	41.9%
2026年3月期	14,170,384	15,536,724	29,707,108	52.3%



事業区分ごとの売上高（千円）

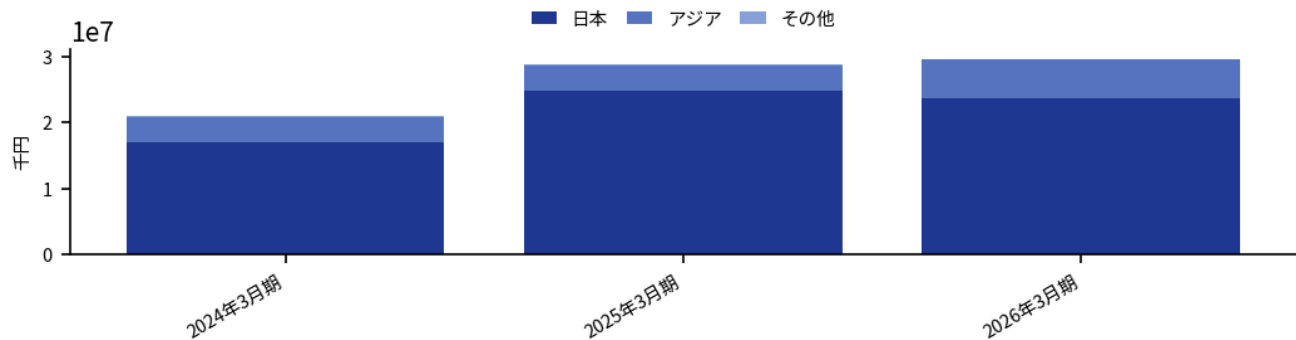
注：千円。比率は修理・部品等÷売上高の計算値。報告セグメントは単一セグメントで、上の区分は有価証券報告書の販売実績と収益の分解情報です。2021～2023年3月期の区分別の値は、このレポートでは文字の頁で確かめられず載せていません。

主機関の売上は、製品を引き渡した時点で計上されます。修理・部品等には、修理、部品の供給、ライセンス、他製品向けの工事が入ります。ライセンスの収益は、ライセンスを受けた会社がエンジンを造って売ったことによるロイヤリティです。2026年3月期は主機関が前期の16,780,776千円から14,170,384千円に減り、修理・部品等が15,536,724千円で主機関を上回りました。区分ごとの利益は開示されていません。

2026年3月期は、売上の半分超（52.3%）を修理・部品等が占めました。

地域別の売上高

年度	日本	アジア	うち中国	その他	アジアの比率
2024年3月期	17,070,852	3,716,937	3,221,820	181,712	17.7%
2025年3月期	24,829,214	3,839,173	3,211,483	194,276	13.3%
2026年3月期	23,631,671	5,921,683	5,323,737	153,753	19.9%



地域別の売上高（千円）

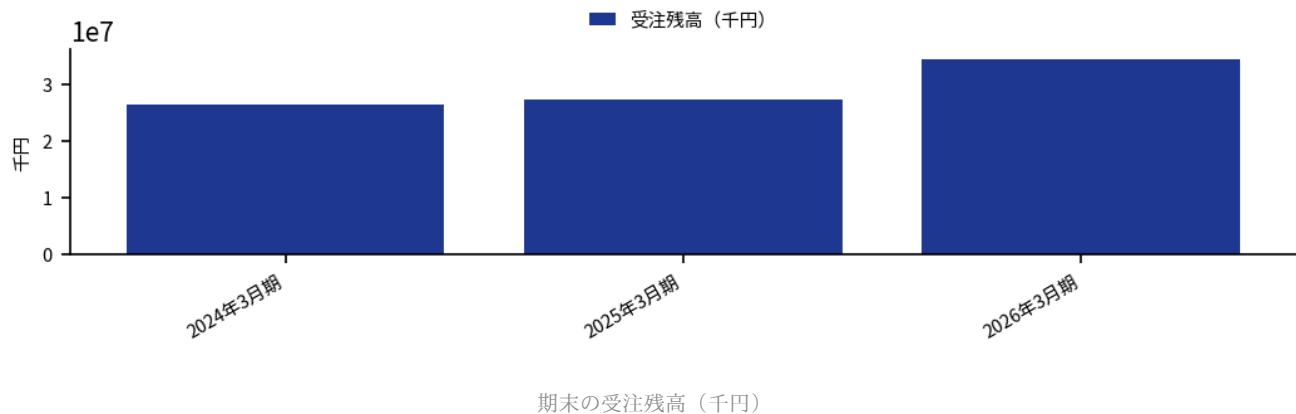
注：千円。地域は顧客の所在地で分けています。アジアの比率はアジア÷売上高の計算値。

2026年3月期の中国向けは5,323,737千円で、売上高の17.9%でした。最大の取引先は中国のライセンサー（ライセンスを受けてエンジンを造る会社）のGuangzhou Diesel Engine Factoryで、売上高は4,294,416千円、総販売実績の14.5%です。日本向けは2025年3月期の24,829,214千円から23,631,671千円へ減りました。

2026年3月期は日本向けが減り、中国を中心にアジア向けが前期の3,839,173千円から5,921,683千円へ増えました。

受注高と受注残高

年度	受注高（千円）	受注残高（千円）	うち主機関の受注残高（千円）	受注残高÷売上高
2024年3月期	—	26,532,801	—	1.27倍
2025年3月期	29,686,722	27,356,860	21,495,402	0.95倍
2026年3月期	36,804,281	34,454,033	26,659,400	1.16倍



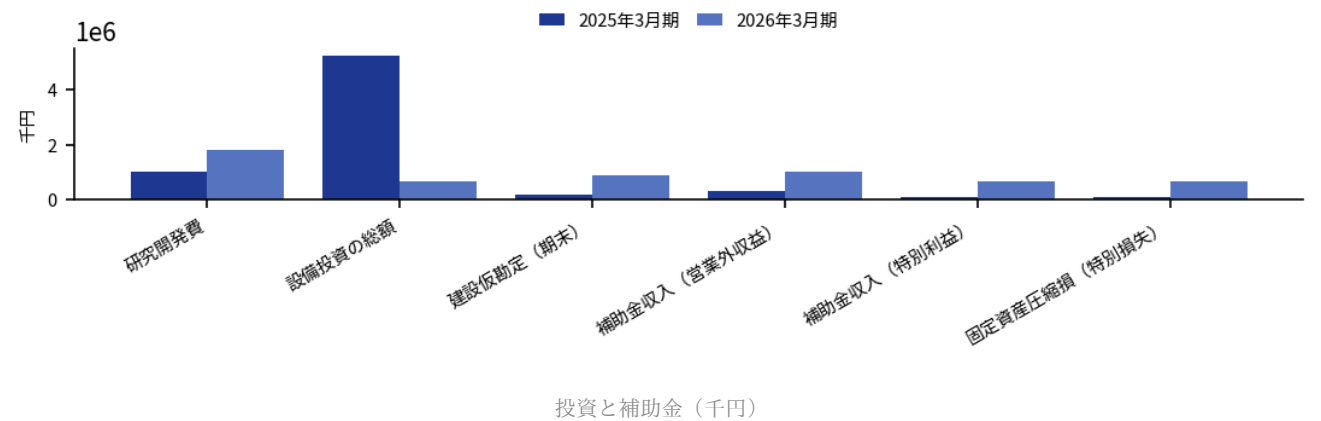
注：千円。2024年3月期の受注残高は、収益認識の注記にある残存履行義務（まだ売上にしていない契約の額）の総額。受注残高÷売上高は計算値で、売上にするまでの年数ではありません。

主機関は引き渡した時点で売上になるため、受注は先に積み上がります。2026年3月期末の主機関の受注残高は、同じ期の主機関の売上高の1.88倍です。会社は主機関の「生産枠取り（内示案件）を3年程度先まで」取得済みと説明しています。受注残を売上にする見込みの期間は、2025年3月期末の「1年から3年」から、2026年3月期末は「1年から4年」に変わりました。

2026年3月期末の受注残高は34,454,033千円で、修理・部品等の受注残高も7,794,633千円ありました。

研究開発・設備投資・補助金

項目	2025年3月期	2026年3月期
研究開発費	1,009,173	1,812,344
設備投資の総額	5,252,331	670,205
建設仮勘定（期末）	170,500	909,535
補助金収入（営業外収益）	326,859	1,012,023
補助金収入（特別利益）	113,128	690,432
固定資産圧縮損（特別損失）	108,685	675,580



注：千円 p16・p17・p37・p39、p17・p18。

研究開発費の売上高に対する割合は3.5%から6.1%に上がりました。会社は、アンモニア・水素燃料エンジンの開発に国の基金事業の交付金を受け、営業外収益に計上していると説明しています p12。2026年3月期の補助金収入は、営業外収益と特別利益の両方に計上されています。

新工場（ゼロエミッション船等の建造促進 補助事業） p33

- 事業金額：199.1億円（最大補助金額66.4億円）
- 事業期間：2024年度～2028年度
- 重油と脱炭素燃料を合わせたエンジン生産能力は「現状の約1.5倍」
- 2026年5月14日時点：「建設工事が進捗中」

2026年3月期は設備投資が前期より小さく、研究開発費と補助金収入が増え、建設仮勘定が909,535千円に積み上がりました。

資料ごとの表記の違いと見直し

項目	先の資料の表記	後の資料の表記
会社の考える株主資本コスト	9%程度（2025年5月13日）	12%程度（2026年5月14日）
2025年3月期のROE	31.2%（2025年5月13日の資料）	36.6%（有価証券報告書・2026年5月14日の資料）
受注残を売上にする見込みの期間	1年から3年（2025年3月期末）	1年から4年（2026年3月期末）
新卒採用人数の目標	10人（2025年3月期）	15人（2026年3月期）
新工場の時期	2029年3月期に完成・開始を予定（2025年6月24日）	2028年度から新工場で事業拡大（2026年5月14日）
アンモニア燃料エンジン初号機	2025年8月に完成・造船所へ納入済（有報の研究開発の頁）	2025年10月に納入を完了（同じ有報の経営成績の頁）

注：2026年5月14日の資料は、ROEを「有価証券報告書で使用する計算式に準拠」して出したと注記しています。新工場の2029年3月期と2028年度は同じ1年間を指す表記です。

株主資本コスト（株主が求めると会社が見積もる利回り）は、1年で9%程度から12%程度に見直されました。同じ年度のROE（自己資本に対する利益の割合）も、資料によって31.2%と36.6%の2つの値があります。新卒採用の目標は人数が引き上げられ、実績は2期とも目標を下回りました（p10）。

会社の数字には、同じ項目でも資料の時期や計算の仕方で値が違うものがあります。

会社の計画・方針とその後の実績

説明した時期・資料	会社の説明	その後の実績	照合	根拠
2022年5月の第1次中期事業計画 (2025年5月13日の資料で再掲) p4	2024年度の売上高16,000百万円、 経常利益700百万円	2024年度の売上高28,862百万円、 経常利益5,421百万円	上回った	2022年度も計画14,000百万円・ 470百万円に対し15,248百万円・682百万円。会社は「事業計画策定値を大きく超過」と総括
2025年5月13日 2026年3月期の業績予想 p7・p8	売上高29,120百万円、 営業利益4,760百万円、 経常利益5,850百万円。 営業利益は「減益」の見込み	売上高29,707百万円、 営業利益5,458百万円、 経常利益6,433百万円	上回った	上方修正後の予想に対する達成率は100.7%・ 101.4%・101.8%
2025年5月13日 2026年3月期の配当予想 p7	年間80円	年間88円	上回った	期末配当を引き上げた p21
2025年6月24日 有価証券報告書 p8	「船用内燃機関で一時的に減収となるものの、修理・部品等の事業拡大による増収が継続」	主機関14,170百万円で前期より減収、修理・部品等15,536百万円で増収	計画どおり	会社は減収の理由に「操業負荷調整と、客先要求納期に応じた売上計上期のばらつきの影響」を挙げた
2025年6月24日 有価証券報告書 p8	初号機の完成は「アンモニアは2026年3月期を、水素は2027年3月期を、各々予定」	アンモニアは「2025年8月に初号機を完成」。 水素は検証運転を開始し「2026年度内に完成・出荷予定」	途中	アンモニアは予定の期に完成。水素は予定の期の途中 p13・p16
2025年5月13日 第2次中期事業計画 p38	「配当性向を現状よりも徐々に高めつつ」 連続増配	配当性向は2025年3月期14.7%、 2026年3月期15.5%	途中	計画期間は2027年度まで。 数値の目標はない

注：年度は4月から翌年3月まで（2025年度＝2026年3月期）。

照合した8項目のうち、実績が出た会社全体の業績と配当は、計画や期初の予想を上回りました。第2次中期事業計画の2026年度・2027年度の目標と配当の方針は、実績がまだ出ていない途中の段階です。主機関の減収は、会社が前もって説明していた動きでした。

期初の予想と第1次中期事業計画は上回り、第2次中期事業計画の目標は2026年8月時点で途中です。

計画・方針と実績（続き）

会社の説明（時期）	その後の実績	照合	根拠
株主資本コストを上回るROEを実現 （2025年5月13日、コストは9%程度） p41・p42	2026年3月期のROEは29.5%	上回った	2026年5月14日の資料はコストを12%程度に見直した p26
人材の目標：女性社員比率20%、 新卒採用人数 2025年3月期10人・ 2026年3月期15人（有価証券報告書）	女性社員比率 2025年3月期15.2%・ 2026年3月期14.0%。新卒採用8人・ 13人。外国籍社員比率も6.3% で目標未満	届かなか った	目標と実績は p11・ p10
新工場：事業金額199.1億円、 エンジン生産能力を約1.5倍、 2028年度から新工場で事業拡大 （2026年5月14日） p8・p33	「建設工事が進捗中」	途中	事業期間は2024年度 ～2028年度
中長期目標：売上高500億円、 経常利益100億円（2026年5月14日） p14	達成の時期は資料に示されていない	未定	第2次中期事業計画の 先の目標として示され た

注：人材の目標と実績は、有価証券報告書の指標及び目標の表の値です。

会社全体の業績の計画を上回った同じ期に、有価証券報告書に載せた人材の目標は、女性社員比率・新卒採用人数・外国籍社員比率のいずれも目標に届きませんでした。新卒採用は目標を10人から15人に上げ、実績も8人から13人に増えましたが、2期とも目標を下回っています。ROEは見直し後の株主資本コストも上回りました。

会社全体の業績の計画は上回り、人材の目標は2期続けて届いていません。

確認点と分からないこと

確認点と分からないこと

- 主機関と修理・部品等の、それぞれの利益と利益率は開示されていません（報告セグメントは単一）。修理・部品等の比率が上がった年に利益率が上がった理由を、区分ごとに確かめることはできません。
- ライセンス関連（部品供給・ロイヤリティー）の売上の金額は、修理・部品等に含まれ単独で出ていません。
- 主機関の販売台数・生産台数の実数は開示がありません。会社は2025年5月13日に「エンジンの総生産台数は一時的に減少する見通し」と説明しました。
- 中長期目標（売上高500億円・経常利益100億円）の達成時期は書かれていません。
- 新工場の生産能力は倍率（約1.5倍）だけで、台数は開示がありません。
- 配当性向の数値目標はありません。研究開発費のうちアンモニア・水素燃料エンジン分の金額も開示がありません。
- 2017～2023年3月期の営業利益は、このレポートでは文字で確かめられる頁を取得できず、p3 の表に入れていません（未確認）。

次の通期決算で、同じ数字が載る資料（2026年に公表された資料での位置）

- 10期の売上高・経常利益・配当・配当性向・ROE：有価証券報告書主要な経営指標等の推移p3
- 主機関と修理・部品等の生産・受注・販売：同 p15、収益の分解情報 p60
- 研究開発費・設備投資：同 p16・p17
- 地域別の売上高・主要な顧客：同 p61
- 人材の目標と実績：同 p10
- 期初予想と実績・次の年度の予想・株主資本コスト：進捗状況のご報告 p7・p18・p26

業績の数字は文字の資料で每期確かめられますが、区分ごとの利益と台数は公開資料からは分かりません。

出典・訂正の連絡先・免責

出典一覧

番号	資料名 (ジャパンエンジンコーポレーション)	発表日	使った頁	URL	確認日
[1]	有価証券報告書 第129期 (2026年3月期)	2026年6月23日	p3・p4・p7・p10・ p13～p17・p21・ p37・p39・p43・ p45・p60・p61	https://www.j-eng.co.jp/company/l4le6t000002nfn-att/l4le6t0000002tfh.pdf	2026年10月11日
[2]	有価証券報告書 第128期 (2025年3月期)	2025年6月24日	p3・p8・p11・p16～ p18・p37・p41・ p59・p60	https://disclosure2dl.edinet-fsa.go.jp/searchdocument/pdf/S100W2S0.pdf	2026年10月11日
[3]	有価証券報告書 第123期 (2020年3月期)	2020年6月29日	p3・p11・p12	https://disclosure2dl.edinet-fsa.go.jp/searchdocument/pdf/S100J3IE.pdf	2026年10月11日
[4]	第2次中期事業計画 進捗状況のご報告	2026年5月14日	p4・p7・p8・p12～ p14・p18・p22・ p26・p33	https://finance-frontend-pc-dist.west.edge.storage-yahoo.jp/disclosure/20260514/20260513531585.pdf	2026年10月11日
[5]	第2次中期事業計画 (2025年度～ 2027年度)	2025年5月13日	p4・p33・p34・ p38・p41・p42	https://finance-frontend-pc-dist.west.edge.storage-yahoo.jp/disclosure/20250513/20250513545955.pdf	2026年10月11日
[6]	2027年3月期 第1四半期決算短信	2026年8月6日	p1 (表紙)・p2	https://finance-frontend-pc-dist.west.edge.storage-yahoo.jp/disclosure/20260806/20260805510933.pdf	2026年10月11日

PDF 資料の頁は資料の下部に印字された番号です。[4]～[6] は東京証券取引所の適時開示 (TDnet) に掲載された会社の資料で、同じファイルを置いた開示ストレージの URL を記載しました。

項目	内容
照合した会社の説明	2025年5月13日～2026年8月6日の中期事業計画の資料・有価証券報告書・決算短信
調査基準日	2026年10月11日
発行	あの〇〇のしくみ

用語

用語	このレポートでの意味 (資料の定義から)
修理・部品等	主機関の修理・部品供給・ライセンス・他製品向け取込工事の収益
主機関の売上	製品を引き渡した時点で収益にする
ライセンス事業の収益	供与先が製造・販売したことによるロイヤリティー収入
地域の売上高は顧客の所在地が基準	売上高は顧客の所在地を基礎としております

訂正の連絡先

誤りのご連絡は、「あの〇〇のしくみ」サイト (anoshikumi.com) のお問い合わせで受け付けています。

免責

このレポートの内容は、公開された決算資料にある事業の数字と会社の説明です。投資の助言や特定の銘柄の推奨ではなく、株価や将来の業績の予想も含みません。情報は調査基準日 2026年10月11日 時点のもので、資料ごとの確認日は出典の表に記載しました。

付録 照合の根拠 (資料の抜き書き)

会社の計画と実績の照合 (p9～p10) に使った数字の、資料の文字そのままの抜き書きです。

根拠の番号	資料・頁	抜き書き
F133	[5] p4	13,164 14,000 15,248 15,000 20,969 16,000 28,862
F135	[5] p4	13,164 14,000 15,248 15,000 20,969 16,000 28,862
F137	[5] p4	613 470 682 600 3,519 700 5,421
F139	[5] p4	613 470 682 600 3,519 700 5,421
F134	[5] p4	13,164 14,000 15,248 15,000 20,969 16,000 28,862
F136	[5] p4	13,164 14,000 15,248 15,000 20,969 16,000 28,862
F138	[5] p4	613 470 682 600 3,519 700 5,421
F140	[5] p4	613 470 682 600 3,519 700 5,421
F141	[5] p4	経営成績は事業計画策定値を大きく超過
F156	[4] p7	29,120 29,500 29,707 100.7%
F159	[4] p7	4,760 5,380 5,458 101.4%
F162	[4] p7	5,850 6,320 6,433 101.8%
F165	[2] p8	営業利益については、研究開発費の増加により前年同期比で減益
F157	[4] p7	29,120 29,500 29,707 100.7%
F160	[4] p7	4,760 5,380 5,458 101.4%
F163	[4] p7	5,850 6,320 6,433 101.8%
F158	[4] p7	29,120 29,500 29,707 100.7%
F161	[4] p7	4,760 5,380 5,458 101.4%
F164	[4] p7	5,850 6,320 6,433 101.8%
F166	[4] p7	80 86 88
F167	[4] p7	80 86 88
F190	[2] p8	船用内燃機関で一時的に減収となるものの、修理・部品等の事業拡大による増収が継続